

## 図書紹介

### 柴 正博著 地質調査入門

紹介者：逢坂興宏

本 NPO の理事でもある柴 正博さんの「地質調査入門」が今年の秋に東海大学出版部から出版されました。本の大きさは B6 版ですが、横幅を 1cm 短くし片手で持ちやすいサイズになっています。

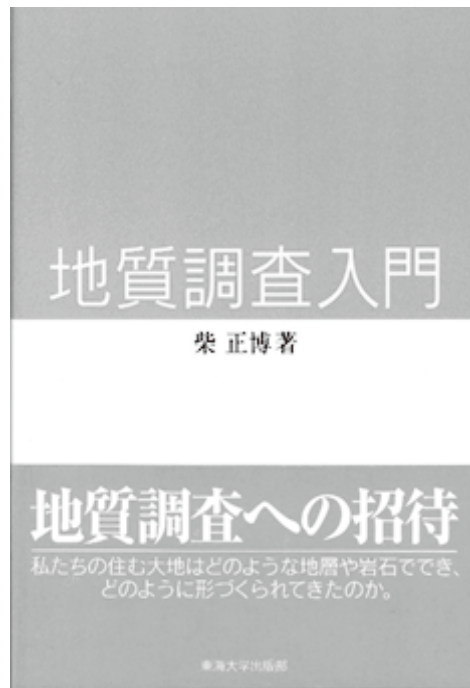
地質調査の目的は、地層や化石を調べ、地域の地質図をつくり、その地域の大地をつくる地層や地質構造がどのように形成されたかを知ることです。本書には、著者が長年調査を行ってきた静岡県南部地域に分布する新第三紀から第四紀の地層や岩石からなる地域で実践されてきた地質調査の方法がまとめられています。

実は本書は、柴さんが以前書かれた自費出版の地質調査入門(駿河湾団体研究グループ)がベースになっています。

駿河湾団体研究グループというのは、1974 年から静岡県を中心に地質調査を行ってきた、学生を主体とした研究グループです。団研では、構成メンバーの学生が毎年のように入れ替わる中、先輩と後輩、学生と社会人が一緒になって地質調査に取り組んできました。そのため地質調査の方法をマニュアル化する必要に迫られ、地質調査入門(当初は団研マニュアル)として自費出版されました。そのような実践に裏付けされ改訂を重ねた地質調査入門が、この度、東海大学から出版されたことは、大変感慨深いことといえます。一般の人には手に入りにくかった自費出版である地質調査入門が、万人が購入できるようになったのですから。

さて、内容についてご紹介しましょう。総ページ 112 ページの本書は、1. 地質調査の方法、2. 堆積岩のみかた、3. 火山岩と地質構造のみかた、4. 地層のみかた、5. 地質図学と地質図の作成、6. 参考資料の全 6 章で構成されています。

1 章の地質調査の方法では、調査の服装・持ち物から、ルートマップの描き方、クリノメーターの使い方など地質調査の基本が解説されています。2 章の堆積岩のみかたでは、堆積岩の分類はもちろんですが、堆積構造と生痕化石の形成が詳しく解説されています。3 章の火山岩と地質構造のみかたでは、火成岩の分類はもちろんのこと、地表でみられる火山岩や火山砕屑物の堆積構造と褶曲や断層のみかたが解説され



東海大学出版部 定価 1200 円 + 税

ています。4 章の地層のみかたは、本書の中で著者が最も力を入れられた章ではないかと思えます。地層という堆積物の構造の成因について、河川から海での地層の形成システムとして、美しい図とともに解説されています。この章を読むと、地層という現在は固定されて動かないものがどのように形成されたのか、そのダイナミックなシステムを大変よく理解できます。地層を調べることによって過去の自然環境がどのようになっていたかがわかる、地質調査にロマンを感じる部分があるのではないのでしょうか。みなさんも、この本を持ってすぐにでも地層を見に行きたい!と思えるはずです。5 章の地質図学と地質図の作成では、野外調査から戻ってきて、実際に地形図上に地質図を作成する方法が解説されています。6 章の参考資料では、現場でよく使われる英単語のリストと地質年代、ウルフネットの使い方が解説されています。

表紙と裏表紙の内側には、県内 17 箇所の特徴的な露頭の写真が掲載されていて地層をみる際の参考になります。また裏表紙には、スケールが印刷されており、現地で礫岩の大きさの径を計るのに便利そうです。

大地の成り立ちを知ることは、今の我々の生活環境を見つめ直し、また自然災害の頻発する現在において、私たちに重要な情報を提供してくれることでしょう。

さあ、この本を手にとつて地質調査に出かけましょう!